くしまっ子

目標は日本一の民謡娘!

民謡の全国大会で優勝目指す

ステージで堂々と民謡を披露する音花ちゃん

各都道府県の予選を勝ち抜いた選手が出場した「民謡民舞少年少女全国大会」が8月に東京都で行われ、小学1～3年生の部で全国10位入賞を果たした黒原音花ちゃん。

音花ちゃんは、5歳の頃、保育園での民謡教室で民謡と出会い、当時の先生で、現在の民謡教室の先生でもある木下信子さんに誘われて民謡を始めました。音花ちゃんは現在、日南市に住んでいますが、毎週土曜日、串間市内の木下民謡教室に通い練習を頑張っています。

民謡は、日本各地で庶民の間に歌い継がれてきた歌であり、遊び歌や祝い歌、仕事歌など人々の生活感情を表しています。

その感情を「自分で考えながら歌えるのが好きです」と話す音花ちゃん。宮崎県を代表する民謡である「シャンシャン馬道中唄」が一番好きで、3月に日南市で開催されたシャンシャン馬道中唄の全国大会でも小学1～3年生の部で4位入賞を果たしています。

「大会でいい結果を残せたときはうれしいし、教室でおばあちゃんたちと一緒に練習するのがとても楽しいです」と笑みをこぼす音花ちゃん。また、「今後はもっとこぶしをとれるよう練習を頑張りたい」と話します。

先生の木下さんは、「聞く姿勢が非常に真面目で、一生懸命で覚えも早い。来年の全国大会では優勝してほしい」とこれからの活躍に期待します。

29. 黒原（くろはら） 音花（おとは）ちゃん

飫肥小学校２年生。福島地区出身。5歳から民謡を始め、8月の少年少女の民謡全国大会で10位入賞を果たす。習字とダンスも得意。

地域おこし協力隊 活動日記 vol.29

幸せを感じた3年間に感謝!

清山（きよやま） 美咲（みさ）さん

こんにちは。串間市地域おこし協力隊の清山美咲です。協力隊としての活動も9月末までとなりました。今回は最後ということなので、3年間串間で過ごす中で私が感じた「幸せ」を感謝の気持ちを込めてお伝えしたいと思います。

移住する前になかった幸せとしてとても印象的だったことは、「顔が見える関係性が身近にある」ということです。例えば、スーパで買い物をする時、ただ「モノを買う」のではなく、その商品をつくっている生産者さんの背景や想いを知った上で買うことがよくあります。同じ「買う」という行動でも、生産者さんの顔を知っていることで「地元のものを買って地域を応援しよう」という気持ちで買い物をすることが増えました。つながりを感じる機会が日常にあることはとても幸せなことだと日々実感しています。

活動をしていく中で感じた幸せもあります。やりたいことをお互いにぶつけ合うのではなく、相手の想いを聴き、自分の想いを伝えてみる。そしてお互いの「想い」が重なり合うところから取り組みをスタートする。この、想いが重なり合った時のパワーが、次につながる新たな関係性を生み、活動の可能性をどんどん広げていく。そのことを実感しながら活動できたことは本当に幸せでした。

「地域創生に答えはない。だから対話をしながら一緒に考えましょう」と言い続けてきた3年間。ただ対話をするだけではなく、つながりの質を持って活動できたのは、“串間”だからこそだと実感しています。一緒に活動してくださった皆さまや多方面からサポートしてくださった皆さま、3年間本当にありがとうございました!

串間で活躍する人を紹介します
きらめき図鑑
kirameki

公民館講座で刺しゅうの楽しさを教える

刺しゅうを通した新たな出会いに感謝

今年度から新たに始まった公民館講座の「刺しゅう教室」。募集開始後すぐに定員に達し、注目を集めています。講師を務めるのは、福島地区在住の加藤悦子さん。加藤さんは高校卒業後すぐに東京に上京し、結婚。40代後半頃、内職をきっかけに刺しゅうを始めます。その後、5年ほど前に串間に戻り、今年になって、友人からの紹介で刺しゅうをしている加藤さんを知った生涯学習専門指導員の山口すが子さんから「公民館講座でこれまで刺しゅう教室がなかったので、ぜひ教えてほしい」と誘いを受け、6月から、月1回本城公民館で刺しゅうを教えています。

刺しゅうの流れは、まず刺した布に図案を書き、下書きをします。その後、下書きに沿って刺しゅう針を使用し、線の強弱や配色などを意識しつつ糸を刺して完成させます。「デザイン、配色選びが重要で、それ次第で完成度が違ってくる」と加藤さん。

「刺しゅうは、完成までに根気のいる作業ですが、自分だけの物を作れるので出来上がりが楽しみ。完成した作品を日々の生活に取り入れて楽しむことができるのが一番の魅力です」と加藤さん。自宅でも刺しゅうをしており、洋服、バックなどの小物にアレンジを加えた作品が数多くあります。

もともと少し人見知りな性格もあって、公民館講座の話を受けた時は、うまく教えられるか不安だったそうですが、「刺しゅうを通して多くの人と新たな出会いをしたい」という気持ちの方が強く、引き受けました。今では、受講生の方と楽しく話をしながら教えています。受講生の一人は、「初心者でしたが、先生に一つひとつ丁寧に教えてもらい、作品を2つ作ることができました。家でも楽しく刺しゅうをしています」と刺しゅうの楽しさを話してくれました。

「今後も講座を継続していき、刺しゅうを通して、みんなが集まれる場所を作っていきたい。新たな出会いのきっかけになれば」。また、「生活の中に刺しゅうを取り入れて、楽しみが少しでも増えてもらえれば」と加藤さん。今後も刺しゅうを通しながら新たな出会いに感謝しつつ、刺しゅうの楽しさを伝えていきます。

加藤（かとう） 悦子（えつこ）さん
（福島地区・本町2丁目）

今年度から公民館講座で刺しゅうを教える。西小路地区出身。趣味はインテリア。

講座受講生との集合写真

刺しゅうの作品